

**2022年度**

**大学院文学研究科フランス文学専攻  
シラバス**

 **西南学院大学大学院**



## 講義科目一覧

フランス文学特殊研究Ⅰ〔武末 祐子〕	1
フランス文学特殊研究Ⅱ〔武末 祐子〕	2
フランス文学特殊研究Ⅲ〔眞下 弘子〕	3
フランス文学演習Ⅲ〔眞下 弘子〕	4
フランス文学研究指導Ⅱ〔眞下 弘子〕	5
フランス文学特殊研究Ⅴ〔和田 光昌〕	6
フランス文学特殊研究Ⅵ〔和田 光昌〕	7
フランス文学演習Ⅴ〔和田 光昌〕	8
フランス文学研究指導Ⅲ〔和田 光昌〕	9
フランス思想特殊研究Ⅰ〔北垣 徹〕	10
フランス思想特殊研究Ⅱ〔北垣 徹〕	11
フランス思想演習Ⅰ〔北垣 徹〕	12
フランス思想演習Ⅱ〔北垣 徹〕	13
フランス語学特殊研究Ⅴ〔ティエリー トリュベール〕	14
フランス語学演習Ⅴ〔ティエリー トリュベール〕	15
フランス語学特殊研究Ⅶ〔ジャン=リュック・アズラ〕	16
フランス語学特殊研究Ⅷ〔ジャン=リュック・アズラ〕	17
フランス語学特殊研究Ⅸ〔ロランス・シュヴァリエ〕	18
フランス語学特殊研究Ⅹ〔ロランス・シュヴァリエ〕	19

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学特殊研究I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	その他または複数言語
担当教員名	武末 祐子			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
<p>世界で最も読まれているフランス小説作家の一人はジュール・ヴェルヌである。ヴェルヌが活躍した19世紀は、科学の進歩が急速に進んだ時代であると同時に神秘的、幻想的で謎めいた事件も起きた。ヴェルヌの小説はそのような社会に深く根ざしており時代性を無視しては読解できない。読解力には広い視野と言語能力が必要である。現代でも古びないヴェルヌの作品の謎を精読によって探る。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
<p>フランス古典小説のしっかりとした文章を読解する必要がある。小説文と向かい合って精読する方法をとる。精読中、疑問があれば、その都度、参加者全員で考察しながら進めていく。常に「なぜ」という問いを発しながら取り組む。</p>				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	序論+Maître Zacharius 1			
2	Maître Zacharius 2			
3	Maître Zacharius 3			
4	Maître Zacharius 4			
5	Maître Zacharius 5			
6	Maître Zacharius 6			
7	Maître Zacharius 7			
8	中間発表			
9	Maître Zacharius 8			
10	Maître Zacharius 9			
11	Maître Zacharius 10			
12	Maître Zacharius 11			
13	Maître Zacharius 12			
14	期末発表			
<b>【テキスト】</b>				
Jules Verne "les voyages extraordinaires" ; Tome 9, Paris : Chez Jean de Bonnot, 1977				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
<p>ジュール・ヴェルヌの世紀：科学・冒険・《驚異の旅》 / フィリップ・ド・ラ・コタルディエール, ジャン=ポール・ドキス監修；新島進, 石橋正孝訳, 東洋書林, 2009</p> <p>La science en question / textes réunis par François Raymond</p>				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
<p>短編小説とはいえ、十分な予習と復習がないと読解は進まない。従って、事前・事後ともに100分の時間は取ってほしい。</p>				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
<p>事前の予習には、わからない単語は辞書で調べておく必要がある。授業担当者から質問されたときは、応えられるように準備しておいてほしい。</p>				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
<p>毎回の授業における積極的な発言力50%と2回のプレゼンテーション50%の総合評価とする。</p>				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
<p>成績は、授業への参加時に質問をすること50%と期末レポート50%の総合評価とする。</p>				
<b>【履修上の注意】</b>				
<p>翻訳に関心がある人は、辞書選びも大切となる。必ず、辞書を引くという習慣をもってほしい。</p>				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学特殊研究II	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 その他または複数言語
		後期		
担当教員名	武末 祐子			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
フランス語から日本語への翻訳研究を行う。翻訳とはどのような作業なのか。翻訳という作業は、逐語訳するとまずく、意識すると大雑把すぎるところがある。テキストのタイプにも気をつけなければならない。実際にフランスの現代文学作品を日本語に翻訳されたものを使用し、翻訳について講義する。翻訳について多面的知識を得ることを目標とする。				
<b>【講義概要】</b>				
翻訳学の理論書を参照し、言語としては、フランス語から日本語への翻訳について考察する。現代フランス文学作品の原書とその日本語訳の訳書を比較しながら考察していく。受講生は、翻訳に必要な語彙、文法的知識からテキストタイプ、ジェンダーの取り上げ方などを学習する。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	序論			
2	翻訳の概念1 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 1			
3	翻訳の概念2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 2			
4	逐語訳と意訳1 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 3			
5	逐語訳と意訳2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 4			
6	テキストタイプ1 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 5			
7	テキストタイプ2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 6			
8	ジェンダー1 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 7			
9	ジェンダー2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 8			
10	政治的文脈1 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 9			
11	政治的文脈2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 10			
12	翻訳の目標1 & Laetitia Colombani i "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 11			
13	翻訳の目標2 & Laetitia Colombani "La tresse" & レティシア・コロンバニ『三つ編み』 12			
14	結論			
<b>【テキスト】</b>				
Laetitia Colombani "La tresse" Bernard Grasset, 2017 & レティシア・コロンバニ『三つ編み』早川書房2019				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』鳥飼玖美子監訳、みすず書房、2018				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
現代フランス文学作品を読む力を身につけるために、事前・事後の学習時間を各100分とする。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
課題については、授業内に指示する。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
課題のフィードバックに関しては、随時、授業中に行う。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
成績は、授業への参加時に質問をすること50%と期末レポート50%の総合評価とする。				
<b>【履修上の注意】</b>				
翻訳に関心がある人は、辞書選びも大切となる。必ず、辞書を引くという習慣をもってほしい。				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学特殊研究Ⅲ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	眞下弘子			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
1. フランス文学作品の読解を通して、原文を精密に読みこなすための語彙・文法力を身につける。2. 作品の背景となる時代の特性や思想、歴史についての幅広い知識を獲得して、一つの文化の根底にある原理的選択の場として文学を考える。				
<b>【講義概要】</b>				
フランス古典演劇の代表作品である『Phèdre』の精密な読解を通して、「世界はことばでできている」と信じた古典主義の "dispositif" が作り上げた劇空間を観察し、「Tragédie nominaliste」とバルトが形容したこの戯曲の修辞体系そのものの表層に、いかなる深層の神話が噴出してくるのかを見きわめる。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No	講義計画			
1	演劇というジャンル			
2	ギリシヤ悲劇とフランス古典主義			
3	フランス語の修辞法			
4	Alexandrinと律動			
5	Phèdre 読解1			
6	Phèdre 読解2			
7	Phèdre 読解3			
8	Phèdre 読解4			
9	Phèdre 読解5			
10	épanorthose「換語」というフランス語のルール			
11	Barthes, Sur Racine 読解1			
12	Barthes, Sur Racine 読解2			
13	発表と討議			
14	読解力試験とまとめ			
<b>【テキスト】</b>				
J.Racine, Phèdre, Folio classique, 2015.				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
『ギリシヤ悲劇全集』全13巻 岩波書店 1990年-1992年、Roland Barthes, Sur Racine, Points essais, 1963 その他授業中にその都度指示する。				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
毎回、指示する箇所について、与えられたテーマに従い原文を詳細に読解してくる。質問すべき点をピックアップしておき、講義後は学習した箇所について、徹底的に語彙・文法事項を復習しながら、内容を再度確認すること。与えられた課題に関する発表を準備すること。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
研究発表ではテキストの抜粋を取り上げて語彙と文法、内容に関して考察した成果を発表する。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
質問やそれに対する回答は、授業の中でその都度丁寧に行っていく。Moodleを通じた質疑応答も活用する。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
平常点(発表を含む、70%)および読解力試験(30%)に基づいて行う。				
<b>【履修上の注意】</b>				
積極的に質問や問題提起を行うよう心掛けること。				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学演習Ⅲ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	眞下弘子			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
1. フランス文学作品の読解を通して、原文を精密に読みこなすための語彙・文法力を身につける。2. 作品の背景となる時代の特性や思想、歴史についての知識を深め、現実とその表象との関係を演劇を通して考察する。				
<b>【講義概要】</b>				
フランス演劇の代表的な作品をピックアップして精密に読解し、現世を表象とみるバロック的存在論と現実の表象である演劇とが等価と見なされていくプロセスを追いながら、人間や世界が演劇の中でどのようにその姿を顕わにするのかを見きわめる。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No	講義計画	No	講義計画	
1	Représentation: 表象・再現・代理	15	Classique et Baroque	
2	『方法序説』テキスト読解1	16	Racine, Andromaque, Texte読解1	
3	『方法序説』テキスト読解2	17	Racine, Andromaque, Texte読解2	
4	Corneille, L'illusion comique, Texte読解1	18	Marivaux, Le Jeu de l'amour et du hasard, Texte読解1	
5	Corneille, L'illusion comique, Texte読解2	19	Marivaux, Le Jeu de l'amour et du hasard, Texte読解2	
6	Corneille, Le Cid, Texte読解1	20	Dissertation littéraire	
7	Corneille, Le Cid, Texte読解2	21	Musset, On ne badine pas avec l'amour, Texte読解1	
8	Dissertation littéraire	22	Musset, On ne badine pas avec l'amour, Texte読解2	
9	Molière, Tartuffe, Texte読解1	23	Dumas fils, La Dame aux camélias, Texte読解1	
10	Molière, Tartuffe, Texte読解2	24	Dumas fils, La Dame aux camélias, Texte読解2	
11	Molière, Tartuffe, Texte読解3	25	オペラ『椿姫』	
12	発表と討議	26	発表と討議	
13	演劇的世界観	27	批評的視座	
14	読解力テスト、前期まとめ	28	読解力テスト、総括	
<b>【テキスト】</b>				
プリントを配布する。				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
Michel Foucault, Histoire de La Folie à L'age Classique, Gallimard, 1976.				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
毎回、指示する箇所について、与えられたテーマに従い原文を詳細に読解してくる。質問すべき点をピックアップしておき、講義後は学習した箇所について、徹底的に語彙・文法事項を復習しながら、内容を再度確認すること。与えられた課題に関する発表を準備すること。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
研究発表ではテキストの抜粋を取り上げて語彙と文法、内容に関して考察した成果を発表する。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
質問やそれに対する回答は、授業の中でその都度丁寧に行っていく。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
平常点(発表を含む、60%)および読解テスト(40%)に基づいて行う。				
<b>【履修上の注意】</b>				
積極的に質問や問題提起を行うよう心掛けること。				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学研究指導Ⅱ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	眞下弘子				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
1. フランス文学作品の精密な読解を通して、フランス語表現の豊かさを学び、語学力の向上を図る。2. 作品の背景となる時代の特性や思想、歴史についての知見を得て、文学研究に活かしながら独自の視点による分析方法を探り、研究論文執筆のための準備を行う。					
<b>【講義概要】</b>					
フランスの各時代を代表する演劇作品を読み、それぞれの時代が「演戯 = 演技 = jeu」を通して描き出してきた人間の行為、他者や世界との関係がいかなるものであるかを見極め、演劇という舞台芸術が世界解釈の鍵概念として機能していることを確認していく。講義は17世紀から現代に至るいくつかの演劇作品の抜粋を原文で読解し、テーマを分析することを中心に行われる。途中で受講者による研究発表を差し込みながら、研究論文の作成を進めていく。					
<b>【講義計画内容】</b>					
No	講義計画	(セコ 考)	No	講義計画	(セコ 考)
1	Introduction: 演戯と演技 "Jeu"		15	エピステーメと古典主義的選択	
2	演劇と表象		16	フーコー『言葉と物』読解1	
3	"theatrum mundi"というメタファー		17	フーコー『言葉と物』読解2	
4	Victor Hugo の演劇論		18	フーコー『言葉と物』読解3	
5	Dionysiaque et Appolonique par Nietzsche		19	ラシーヌ『フェードル』読解1	
6	研究論文のプラン作成方法		20	ラシーヌ『フェードル』読解2	
7	文献収集の方法		21	ラシーヌ『フェードル』読解3	
8	文献読解・分析の方法と先行研究の調査		22	先行論文と批評文献	
9	演劇批評と研究論文		23	モリエール『タルチュフ』読解1	
10	演劇の構造(1)ソフォクレス『オイディプス王』		24	モリエール『タルチュフ』読解2	
11	演劇の構造(2)ロトルー『聖ジュネ正伝』		25	モリエール『タルチュフ』読解3	
12	演劇の構造(3)コルネイユ『Illusion comique』		26	Dissertation littéraire	
13	ヴェルサイユと宮廷祝祭		27	研究発表と討議	
14	研究発表と討議		28	総括: 演劇研究の視座	
<b>【テキスト】</b>					
プリントを配布する。					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
藤井康生『フランス・バロック演劇研究』平凡社、1995年/イエイツ著、藤田実訳『世界劇場』、晶文社、1978年/ミシェル・フーコー『言葉と物』渡辺一民・佐々木明訳、新潮社、新装版2000年					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
毎回、指示する箇所について、与えられたテーマに従い原文を詳細に読解してくる。質問すべき点をピックアップしておき、講義後は学習した箇所について、徹底的に語彙・文法事項を復習しながら、内容を再度確認すること。与えられた課題に関する発表を準備すること。					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
研究発表では準備中の研究論文のアウトラインについて発表を行う。					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
研究発表を聴き、分析方法の妥当性やテーマの独創性について随時助言を行う。					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
発表を含む平常点に基づいて行う。					
<b>【履修上の注意】</b>					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学特殊研究V	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	和田光昌			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
近代フランス文化を理解する鍵となるテーマに沿って選ばれた、文学作品と評論をフランス語で読解できるようになる。辞書や語学書を適切に利用し、テキストの重層性を理解できるようになる。				
<b>【講義概要】</b>				
近代フランス文学における「子ども」の表象について、代表的なテキストを読むことでフランス語文献の読解力を養うとともに、ブルジョワ社会の成立において「子ども」の表象がどのように貢献し、また排除の対象となったのかを理解できるように読解力を養う。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	近代と子ども			
2	ユゴーの子ども: パリの浮浪児			
3	ユゴーの子ども: ガブロッシュとその末裔たち			
4	ユゴーの子ども: コゼット			
5	ユゴーの子ども: 『笑う男』(1)			
6	ユゴーの子ども: 『笑う男』(2)			
7	ヴァレス『子ども』(1)			
8	ヴァレス『子ども』(2)			
9	ヴァレス『子ども』(3)			
10	マロ『家なき子』(1)			
11	マロ『家なき子』(2)			
12	コクトー『恐るべき子どもたち』(1)			
13	コクトー『恐るべき子どもたち』(2)			
14	まとめとディスカッション			
<b>【テキスト】</b>				
なし(ファイル配布)				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
Marina Bethlenfalvay, "Les visages de l'enfant dans la littérature française du XIXe siècle", Droz, 1979.				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
毎回、次回に扱うフランス語のテキストについて語彙や文法を調べるのに2時間程度の事前学習が必要である。授業後は、授業で扱ったテキストの文法事項の復習や、フランス語のコメント作成に約2時間の事後学習が必要である。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
フランス語テキストの語彙と文法の予習、復習。またそのテキストについてのcommentaire de texte の作成。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
テキスト読解に関しては、授業中に確認する。コメントに関しては、添削による。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
毎回の課題の予習の精度、授業での発表、事後のコメントをそれぞれ三分の一の割合で評価した上で、最終的には総合的に判断して評価する。				
<b>【履修上の注意】</b>				
なし				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学特殊研究VI	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	和田光昌			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
近代フランス文化を理解する鍵となるテーマに沿って選ばれた、文学作品と評論をフランス語で読解できるようになる。そこから自分のテーマを発見して、それについて文献調査を行い、自分の意見を論理的に構成して日本語とフランス語で表現できるようになる。				
<b>【講義概要】</b>				
近代フランス文学における「女性」の表象について、代表的なテキストを読むことでフランス語文献の読解力を養うとともに、ブルジョワ社会の成立において「女性」の表象がどのように貢献し、また排除の対象となったのかを理解し、それについて、文献調査を行った上で、口頭発表やレポート作成を行う。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	近代と女性			
2	フロベール『ボヴァリー夫人』(1)			
3	フロベール『ボヴァリー夫人』(2)			
4	フロベール『ボヴァリー夫人』(3)			
5	フロベール『ボヴァリー夫人』(4)			
6	フロベール『ボヴァリー夫人』(5)			
7	テーマ選択のためのディスカッション			
8	写実主義・自然主義文学における女性の表象(1)			
9	写実主義・自然主義文学における女性の表象(2)			
10	写実主義・自然主義文学における女性の表象(3)			
11	ベル・エポック期における女性の表象(1)			
12	ベル・エポック期における女性の表象(2)			
13	ベル・エポック期における女性の表象(3)			
14	テーマ発表とレポート提出			
<b>【テキスト】</b>				
なし(ファイル配布)				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
Djamila Belhouchat et al., "Des femmes en littérature", Belin, 2018.				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
毎回、次回に扱うフランス語のテキストについて語彙や文法を調べるのに2時間程度の事前学習が必要である。授業後は、授業で扱ったテキストの文法事項の復習や、フランス語のコメント作成に約2時間の事後学習が必要である。				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
フランス語テキストの語彙と文法の予習、復習。またそのテキストについてのcommentaire de texte の作成。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
テキスト読解に関しては、授業中に確認する。コメントに関しては、添削による。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
毎回の課題の予習の精度、授業での発表、事後のコメントをそれぞれ三分の一の割合で評価した上で、最終的には総合的に判断して評価する。				
<b>【履修上の注意】</b>				
なし				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学演習V		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	和田光昌				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
フランス文学についての評論を読むことによって、フランス語の読解力を養成すると共に、文学研究固有のアプローチの仕方を理解できるようになる。					
<b>【講義概要】</b>					
前期は、フロベールの文体をめぐって展開された論争をもとにして第3共和政下の学としての文学研究と言語学の葛藤について学び、後期は、19世紀後半のフランスにおけるモデルニテの成立について概要を把握しながら、受講生の研究テーマの選択と修士論文に向けた具体的な研究方法を発表する。					
<b>【講義計画内容】</b>					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	イントロダクション		15	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(1)("L'air du temps")	
2	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(1) (la prose impressionniste et la grammaire)		16	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(2)("Etrangers dans la ville")	
3	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(2) (la syntaxe et le style)		17	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(3)("Des maîtres")	
4	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(3) (Flaubert et ses "fautes")		18	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(4)("Entre égaux")	
5	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(4) (Un grand écrivain peut-il écrire comme un potache?)		19	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(5)("Vie publique")	
6	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(5) (La littérature est-elle une affaire de grammaire?)		20	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(6)("Démocratie")	
7	受講生によるテーマ決定のための発表(1)(19世紀)		21	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(7)("Révolutions")	
8	受講生によるテーマ決定のための発表(2)(20世紀前半)		22	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(8)("Guerres")	
9	受講生によるテーマ決定のための発表(3)(20世紀 後半)		23	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(9)("L'opinion, la bêtise")	
10	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(6) ("invention de sentiment" contre "invention grammaticale")		24	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(10)("Idées, idéal")	
11	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(7) (Le débat sur le style indirect libre)		25	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(11)("Mélancolie")	
12	Gilles Philippe "Sujet, verbe, complément" を読む(8) (Les emplois "littéraires" de l'imparfait?)		26	Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes"の講読(12)("Le noir")	
13	受講生の研究テーマのプレゼンとコメント(1)(19世紀)		27	受講生による発表(4)	
14	受講生の研究テーマのプレゼンとコメント(2)(20世紀前半)		28	受講生による発表(5)	
<b>【テキスト】</b>					
Gilles Philippe, "Sujet, verbe, complément. Le moment grammatical de la littérature française 1890-1940.", Gallimard, 2002. Claude Mouchard, "Un grand désert d'hommes 1851-1885. Les équivoques de la modernité", Hatier, 1991.					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
上記のbibliographieを参照のこと					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
予習が必須。予習するときは、単語の意味だけでなく、文章の意味と文脈に留意すること。事後は、授業中に理解できなかった単語や文法事項、批評用語や文学史的知識について辞書や参考書で調べ、必要であれば図書館で文献にあたること。					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
与えられたフランス語のテキストについて、単語を調べるとともに、固有名詞について内容を調べる。事後は、フランス語でのコメントを書く。					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
フランス語のテキストの意味、知識事項については授業中に確認する。フランス語のコメントについては添削する。					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
予習の精度と発表を1対1の割合で評価する。					
<b>【履修上の注意】</b>					
なし。					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス文学研究指導Ⅲ		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	和田光昌				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
文学理論の基本を学び、テーマを設定し、文献調査を行い、自分で論文を書くことができるようになる。					
<b>【講義概要】</b>					
Antoine Compagnon, "Le Démon de la théorie", Seuil, 1998を読みながら、受講者の研究内容を発表してもらい、議論する。また、論文の添削を行う。					
<b>【講義計画内容】</b>					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	イントロダクション		15	論文プラン添削その1(19世紀)	
2	"Le Démon de la théorie"講読その1(Théorie, critique, histoire)		16	論文プラン添削その2(20世紀前半)	
3	"Le Démon de la théorie"講読その2(Littérature et la fonction)		17	論文プラン添削その3(20世紀後半)	
4	"Le Démon de la théorie"講読その3(Mort de l'auteur)		18	"Le Démon de la théorie"講読その9(Réception)	
5	テーマ選択のための発表と議論その1(19世紀)		19	"Le Démon de la théorie"講読その10(Lecteur implicite)	
6	テーマ選択のための発表と議論その2(20世紀前半)		20	"Le Démon de la théorie"講読その11(Style comme pensée)	
7	テーマ選択のための発表と議論その3(20世紀後半)		21	論文添削その1(19世紀)	
8	"Le Démon de la théorie"講読その4(Allégorie)		22	論文添削その2(20世紀前半)	
9	"Le Démon de la théorie"講読その5(Intention et conscience)		23	論文添削その3(20世紀後半)	
10	"Le Démon de la théorie"講読その6(Mimèsis)		24	"Le Démon de la théorie"講読その12(Histoire littéraire)	
11	"Le Démon de la théorie"講読その7(Réalisme)		25	"Le Démon de la théorie"講読その13(Histoire sociale)	
12	"Le Démon de la théorie"講読その8(Illusion référentielle)		26	"Le Démon de la théorie"講読その14(Evolution littéraire)	
13	研究発表と議論その1(19世紀)		27	論文修正その1(19世紀)	
14	研究発表と議論その2(20世紀前半)		28	論文修正その2(20世紀前半)	
<b>【テキスト】</b>					
Antoine Compagnon, "Le Démon de la théorie", Seuil, 1998					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
なし					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
予習が必須。予習するときは、単語の意味だけでなく、文章の意味と文脈に留意すること。事後は、授業中に理解できなかった単語や文法事項、批評用語や文学史的知識について辞書や参考書で調べ、必要であれば図書館で文献にあたること。					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
与えられたフランス語のテキストについて、単語を調べるとともに、固有名詞について内容を調べる。事後は、フランス語でのコメントを書く。					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
フランス語のテキストの意味、知識事項については授業中に確認する。フランス語のコメントについては添削する。					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
予習の精度と発表を1対1の割合で評価する。					
<b>【履修上の注意】</b>					
なし					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス思想特殊研究I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	北垣 徹			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
フランス語で書かれた思想のテキスト読解を通じて、哲学的な思考の力を獲得すると共に、各時代の思想が置かれた歴史的・社会的文脈にも注目しつつ、総合的な判断力を養うことを目指す。				
<b>【講義概要】</b>				
クリストフ・シャルルの『時の不調和：近代についての概略史La discordance des temps : une brève histoire de la modernité』を主たるテキストとしつつ、フランス革命以降の19世紀および20世紀の近代史を、主に文化史・思想史の領域を中心として考察する。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	イントロダクション：モデルニテを考える			
2	モデルニテという考えの浮上			
3	新時代としての革命			
4	1830年：文化財の逆説的発明、『ノートルダム・ド・パリ』			
5	演劇：現在化された過去			
6	絵画：歴史の再表象			
7	ユートピア：未来を考える			
8	サン＝シモンとサン＝シモン主義者たち			
9	サン＝シモン、メッセージの拡散			
10	1830年前後のサン＝シモン主義運動			
11	科学、技術および産業			
12	フーリエとフーリエ主義者たち			
13	カベール、共産主義と機械			
14	まとめ：19世紀の社会主義			
<b>【テキスト】</b>				
Christophe Charles, La discordance des temps : une brève histoire de la modernité, Paris, Armand Colin, 2011.				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
講義中に適宜、指定する。				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
各回で扱うテキストの該当部分について、授業中に指定する参考書・参考資料等に目を通しつつ、十分な事前・事後学習を行うこと。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
授業中に行う発表および学期末に提出するレポート。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
授業中に行う発表については、その場で口頭でフィードバックする。レポートに関しては、メールでのフィードバックも行う。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
授業中に行う発表を基にした平常点(50点)およびレポート(50点)による。				
<b>【履修上の注意】</b>				
フランス語のテキスト読解が中心的な作業となるので、十分な予習をして講義に臨むこと。				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス思想特殊研究II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	北垣 徹			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
フランス語で書かれた思想のテキスト読解を通じて、哲学的な思考の力を獲得すると共に、各時代の思想が置かれた歴史的・社会的文脈にも注目しつつ、総合的な判断力を養うことを目指す。				
<b>【講義概要】</b>				
クリストフ・シャルルの『時の不調和：近代についての概略史La discordance des temps : une brève histoire de la modernité』を主たるテキストとしつつ、フランス革命以降の19世紀および20世紀の近代史を、主に文化史・思想史の領域を中心として考察する。				
<b>【講義計画内容】</b>				
No.	講義計画			
1	パリ：時の不調和の首都			
2	電気の都市パリ			
3	知られざる都市パリ、秘密結社			
4	文学的イメージと社会的現実			
5	パリの病理学と人口流入			
6	二つのパリ、光と闇			
7	1848年：諸民族の一致？			
8	革命下の首都：時の一致			
9	革命の地政学			
10	革命の意味の分岐			
11	ウィーン、ベルリン、ローマ			
12	知識人の政治参加の起源			
13	時の不調和における知識人の類型			
14	まとめ：19世紀の政治と社会			
<b>【テキスト】</b>				
Christophe Charles, La discordance des temps : une brève histoire de la modernité, Paris, Armand Colin, 2011.				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
講義中に適宜、指定する。				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
各回で扱うテキストの該当部分について、授業中に指定する参考書・参考資料等に目を通しつつ、十分な事前・事後学習を行うこと。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
授業中に行う発表および学期末に提出するレポート。				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
授業中に行う発表については、その場で口頭でフィードバックする。レポートに関しては、メールでのフィードバックも行う。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
授業中に行う発表を基にした平常点(50点)およびレポート(50点)による。				
<b>【履修上の注意】</b>				
フランス語のテキスト読解が中心的な作業となるので、十分な予習をして講義に臨むこと。				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス思想演習I	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	北垣 徹				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
本講義を通じて、フランスの文学や歴史、思想にかんして、一般的な知識を身につけると共に、学生がみずから選んだ主題について、より専門的な研究を行いつつ、独創的な修士論文を執筆することを目指す。					
<b>【講義概要】</b>					
近現代のフランス史にかんして、とりわけその社会史的・文化史的・思想的文脈を踏まえながら、フランスにおける多文化受容のプロセスをさまざまな視点から追っていく。とりわけ、支配的なエリート文化には含まれない、サブカルチャーにたいする関心を忘れないようにする。					
<b>【講義計画内容】</b>					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション、イントロダクション		15	倫理の思想	
2	主体の中の生き生きとしたもの		16	宇宙規模での資源	
3	多型的アイデンティティ		17	倫理的不確実性	
4	精神と意識		18	思想の倫理	
5	アダム・コンプレックス：サピエンス＝デマンス		19	科学、倫理、社会	
6	理性と狂気の彼岸		20	倫理と政治	
7	耐える現実		21	個人主義的倫理	
8	社会的アイデンティティ(1): アルカイックな中核		22	こころにまつわる文化	
9	社会的アイデンティティ(2): リヴァイアサン		23	回復(レジリエンス)の倫理	
10	歴史的アイデンティティ		24	理解の倫理	
11	地球規模でのアイデンティティ		25	偉大さと赦し	
12	未来のアイデンティティ		26	生きる術：詩あるいは／そして賢さ	
13	覚醒した者と夢中遊行者		27	自己倫理的結論：re-とco-	
14	始源への回帰		28	まとめ	
<b>【テキスト】</b>					
Edgar MORIN, La méthode I/II, Paris, Seuil, 2008.					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
授業中に適宜、指摘する。					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
各回で扱うテキストの該当部分について、授業中に指定する参考書・参考資料等に目を通しつつ、十分な事前・事後学習を行うこと。					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
授業中に行う発表および学期末に提出するレポート。					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
授業中に行う発表については、その場で口頭でフィードバックする。レポートに関しては、メールでのフィードバックも行う。					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
授業中に行う発表を基にした平常点(50点)およびレポート(50点)による。					
<b>【履修上の注意】</b>					
フランス語のテキスト読解が中心的な作業となるので、十分な予習をして講義に臨むこと。					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス思想演習II		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	北垣 徹				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
本講義を通じて、フランスの文学や歴史、思想にかんして、一般的な知識を身につけると共に、学生がみずから選んだ主題について、より専門的な研究を行いつつ、独創的な修士論文を執筆することを目指す。					
<b>【講義概要】</b>					
近現代のフランス史にかんして、とりわけその社会史的・文化史的・思想的文脈を踏まえながら、フランスにおける多文化受容のプロセスをさまざまな視点から追っていく。とりわけ、支配的なエリート文化には含まれない、サブカルチャーにたいする関心を忘れないようにする。					
<b>【講義計画内容】</b>					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション、イントロダクション		15	確実性をめぐる認知的強迫	
2	認識の認識		16	二重の憑依	
3	知の病理学		17	真実の宗教と宗教の真実	
4	認識基盤の危機		18	心的享受と忘我	
5	メタ観点		19	真実の誤謬	
6	認識の生物学		20	快樂原則を越えて	
7	認識に含まれる動物性		21	アナロジーと論理	
8	脳神経的装置		22	説明と包摂(理解)	
9	精神と脳		23	理解を理解する(包み込む)	
10	超複雑性の機械		24	弁証法的理解	
11	計算と認知		25	象徴的思考	
12	認識の実存		26	神話的・呪術的思考	
13	認識の精神医学		27	精神のアルケー(原基)	
14	認識の精神分析		28	まとめ	
<b>【テキスト】</b>					
Edgar MORIN, La méthode I/II, Paris, Seuil, 2008.					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
授業中に適宜、指摘する。					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
各回で扱うテキストの該当部分について、授業中に指定する参考書・参考資料等に目を通しつつ、十分な事前・事後学習を行うこと。					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
授業中に行う発表および学期末に提出するレポート。					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
授業中に行う発表については、その場で口頭でフィードバックする。レポートに関しては、メールでのフィードバックも行う。					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
授業中に行う発表を基にした平常点(50点)およびレポート(50点)による。					
<b>【履修上の注意】</b>					
フランス語のテキスト読解が中心的な作業となるので、十分な予習をして講義に臨むこと。					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学特殊研究 V	通年・前期・後期	単位数	使用言語
			2	フランス語
担当教員名	ティエリー トリュベール Thierry Trubert			
【講義の到達目標及びテーマ】				
映画の中で話されているフランス語と字幕のフランス語と、どのように違うかを比較していく。 Comparer le français écrit dans le roman avec le français en sous-titre dans le film.				
【講義概要】				
小説のフランス語即ち書き言葉が映画の中でどのような話し言葉になっているかに焦点をおきながら検討していく。 Nous allons comparer plus précisément le français écrit avec le français oral. 作品 Les Aristocrates I 「貴族階級の人々」は1954年にミッシェル・ド・サンピエールによって書かれた小説で、次の年にアカデミー・フランセーズ賞を受賞した。同じ年、1955年にドニス・ラ・パトリエール監督が名優(ピエール・フレネーやジョルジュ・デクリエールなど)を使って映画化し、彼の最初の作品となった。				
【講義計画内容】				
No	講義計画			
1	Présentation du cours et écoute des demandes personnelles des étudiants à propos de scènes du film et du livre.			
2	1er passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
3	2eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
4	3eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
5	4eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
6	5eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
7	5eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
8	6eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
9	7eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
10	8eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
11	9eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
12	10eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
13	11eme passage d'une scène du film et lecture de la page du livre dont elle est inspirée, ainsi que des sous-titres.			
14	Conclusion			
【テキスト】				
作者: Michel de Saint Pierre 題名: Les Aristocrates 出版社: Editions de Saint Mont				
【参考書・参考資料等】				
Le film sera distribué en DVD aux étudiants en cours d'année.				
【事前・事後学習、時間等】				
Lire le roman et voir le film distribué en début de semestre, étudier les dialogues de la séquence exploitée pendant le cours suivant.				
【課題の種類・内容】				
Retranscrire les dialogues étudiés en classe.				
【課題に対するフィードバックの方法】				
faire des feedback pendant le cours				
【成績評価方法・基準】				
Participation au cours et s'exprimer en classe				
【履修上の注意】				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学演習 V		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	フランス語
担当教員名	ティエリー トリュベール Thierry Trubert				
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>					
Caroline est une petite linguiste. Nous allons suivre avec elle l'apparition d'une grammaire mentale, du code de déchiffrement du langage humain.					
<b>【講義概要】</b>					
Pour étudier comment se former chez un être humaine, nous allons lire ce livre composé de quatre parties : phonétique, grammaire, construction linguistique et créativité linguistique. Les étudiants vont présenter ce qu'ils ont appris deux fois dans chaque semestre					
<b>【講義計画内容】</b>					
No	講義計画	(担当者)	No	講義計画	(担当者)
1	Introduction		15	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 1	
2	Caroline phonéticienne: La découverte du système phonétique 1		16	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 2	
3	Caroline phonéticienne: La découverte du système phonétique 2		17	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 3	
4	Caroline phonéticienne: La découverte du système phonétique 3		18	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 4	
5	Caroline phonéticienne: La découverte du système phonétique 4		19	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 5	
6	Caroline phonéticienne: La découverte du système phonétique 6		20	Caroline Linguiste: Le travail de Construction de L1 6	
7	Présentation des étudiants		21	Présentation des étudiants	
8	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 1		22	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 1	
9	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 2		23	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 2	
10	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 3		24	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 3	
11	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 4		25	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 4	
12	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 5		26	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 5	
13	Caroline grammairienne: La découverte du système grammatical 6		27	Caroline Poète: Appropriation de L1 et créativité 6	
14	Présentation des étudiants		28	Présentation des étudiants	
<b>【テキスト】</b>					
Heri Adamczewski, "Caroline, grammairienne en herbe, ou, Comment les enfants inventent leur langue maternelle", presse de la sorbonne nouvelle, 1995.					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
Henri Adamczewski, Jean-Pierre Gabilan, "Déchiffrer la grammaire anglaise", Didier, 1996.					
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>					
Lire le roman et voir le film distribué en début de semestre, étudier les dialogues de la séquence exploitée pendant le cours suivant.					
<b>【課題の種類・内容】</b>					
Récapituler les études en classe.					
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>					
faire du feedback pendant le cours					
<b>【成績評価方法・基準】</b>					
Participation au cours et présentation en classe.					
<b>【履修上の注意】</b>					

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学特殊研究Ⅶ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	ジャン=リュック・アズラ			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
L'objectif de ce cours est de prendre conscience de ce qu'est la réalité des langues humaines, en s'appuyant en particulier sur des exemples tirés du français. En effet, même s'il n'y a rien de plus naturel que la parole et la communication entre personnes au moyen de la langue, les étudiants partagent souvent avec le public général des notions répandues mais erronées du fonctionnement des langues (et de la leur propre). Il s'agira dans ce cours de remettre à plat ces notions pour permettre une meilleure approche linguistique dans le cadre de leur travail de doctorants.				
<b>【講義概要】</b>				
Dans ce cours, il s'agira d'abord de définir ce qu'est une langue. En effet, la connaissance intuitive qu'on peut avoir de la notion de langue, ainsi que les définitions des dictionnaires prescriptifs, tendent à entretenir des confusions entre langue et codes, langue et systèmes d'écriture, langues et dialectes, dialectes et accents, emprunts et langues étrangères, dialectes et sociolectes. Par ailleurs, on ignore les notions de changement linguistique ou de variation sociale ou individuelle. Enfin, on décrit souvent la langue de façon prescriptive. Pour mettre à plat ces notions, nous utiliserons divers documents qui seront fournis par l'enseignant. Nous nous appuierons principalement sur des exemples tirés du français, mais aussi parfois du japonais, de l'anglais ou d'autres langues. Nous finirons le semestre par une initiation à la francophonie et à l'histoire du français.				
<b>【講義計画内容】</b>				
No	講義計画			
1	Introduction : qu'est-ce qu'une langue ?			
2	Codes, systèmes d'écriture et orthographe			
3	Dialectes et accents			
4	Vocabulaire et emprunts			
5	Système(s) syntaxique(s) du français			
6	Sociolectes, technoclectes, idiolectes			
7	Changements linguistiques contemporains en français			
8	Approches normatives et approches descriptives			
9	Corpus et outils linguistiques disponibles en ligne			
10	Francophonie			
11	Créoles à base française ou anglaise			
12	Les politiques linguistiques			
13	Les tentatives de réforme de l'orthographe			
14	Diachronie : introduction à l'histoire du français			
<b>【テキスト】</b>				
無し				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
無し				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
Les étudiants doivent revoir le vocabulaire des leçons étudiées. Il doit préparer la lecture des passages suivants. (1時間)				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
無し				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
Pendant la classe, on aura des discussions sur les sujets abordés. La correction des petits tests sera également l'occasion de donner du feedback aux étudiants.				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
Activité en classe 20%, Petits tests (5 fois) 80%. Il n'y a pas d'examen final.				
<b>【履修上の注意】</b>				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学特殊研究Ⅷ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	その他または複数言語
担当教員名	ジャン=リュック・アズラ			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
<p>本科目の目標は、履修者がフランス語の語源と変遷を概観し、理論的に理解することである。さらに、フランス語、ひいては言語そのものが地域や文化・社会の形成といかに関わっているかについて、知識と理解を深めることである。フランス語の仕組みについて言語学的な知識を得ることにより、実践的な運用能力が高まる。また、言語に関する教養を深めることにより、背景にある文化・社会に関する教養が深まる。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
<p>まず、履修者は毎回、前回の内容に関する小テストを受ける。次に、その回の内容の講義を受ける。そして、それに関する練習問題や議論などの学習活動を行う。学期末には、発表を行う。なお、本科目では、フランス語の歴史を現代から過去に遡っていく。履修者がより身近に知っていることから始めるためである。</p>				
<b>【講義計画内容】</b>				
No	講義計画			
1	第1回：現代フランス語の変遷（20, 21世紀）：発音			
2	第2回：現代フランス語の変遷（20, 21世紀）：つづり字			
3	第3回：現代フランス語変遷（20, 21世紀）：語彙			
4	第4回：近代的なフランス語への変遷（15～19世紀）			
5	第5回：鼻母音の変化（9～14世紀）			
6	第6回：鼻母音の変化（14～21世紀）			
7	第7回：中世のフランス語（古フランス語）			
8	第8回：ラテン語			
9	第9回：古典ラテン語から口語ラテン語			
10	第10回：フランス語における口語ラテン語			
11	第11回：ギリシャ語：ラテン語とフランス語への影響			
12	第12回：古代のヨーロッパ・地中海言			
13	第13回：インド・ヨーロッパ言語			
14	第14回：履修者による発表			
<b>【テキスト】</b>				
無し				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
無し				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
各回の内容を次の回で行う小テストに備えて覚えること。時々授業の前に文法や語彙について調べること(1時間程度)。				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
無し				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
授業中に勉強している内容についてディスカッションする。また、小テストの修正をする。				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
授業での取り組み20%、各回のまとめ小テスト80%。期末テストは行わない。				
<b>【履修上の注意】</b>				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学特殊研究 IX	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 フランス語
担当教員名	ロランス シュヴァリエ			
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>				
L'appropriation d'une langue étrangère: introduction aux théories et concepts et essais d'application. Ce cours s'adresse à de potentiels futurs enseignants de langue et propose de les familiariser avec quelques concepts clés de didactique, constituant une base essentielle dans une formation à l'enseignement d'une langue étrangère, dans notre cas le français.				
<b>【講義概要】</b>				
Lorsqu'on se pose la question du "comment enseigner?", on ne peut logiquement pas faire l'économie de s'interroger sur sa question "jumelle": "comment apprend-on?". Au 1er semestre, on étudiera les principales théories de l'apprentissage et les concepts utilisés aujourd'hui lorsqu'on parle d'appropriation d'une langue étrangère, puis on se penchera de manière plus approfondie et réflexive sur les relations entre les deux versants "enseignement" et "apprentissage", et les implications que cela entraîne dans les pratiques de classe.				
<b>【講義計画内容】</b>				
No	講義計画			
1	Discussion: comment apprend-on une langue étrangère?			
2	Les théories de l'apprentissage (1): le type transmissif			
3	Les théories de l'apprentissage (2): le béhaviourisme			
4	Les théories de l'apprentissage (3): les approches cognitives et la neurolinguistique			
5	TP: mise en relation de sa propre démarche et des théories présentées			
6	Les stratégies d'apprentissage (1): théorie			
7	Les stratégies d'apprentissage (2): exemples			
8	Les styles d'apprentissage			
9	TP: analyser ses propres stratégies d'apprentissage			
10	Apprentissage et acquisition			
11	Apprentissage et enseignement			
12	La dynamique de classe			
13	TP: relation entre les types d'activités d'apprentissage et les théories d'apprentissage			
14	Exposé: essai de préparation d'une classe interactive			
<b>【テキスト】</b>				
なし				
<b>【参考書・参考資料等】</b>				
JP. Cuq, I. Gruca (2009), "Cours de didactique du français langue étrangère et seconde", PUG ; Council of Europe (2004) 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」朝日出版社				
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>				
Lire les textes distribués et préparer des questions s'il y a des éléments non compris (1h30). Toujours relire le contenu du cours précédent et faire les devoirs demandés (1h).				
<b>【課題の種類・内容】</b>				
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>				
Le feed-back oral est constant tout au long du cours. Le devoir sera rendu avec des commentaires annotés.				
<b>【成績評価方法・基準】</b>				
Devoir (50%) + travaux pratiques (TP) (30%) + participation (20%)				
<b>【履修上の注意】</b>				

# 2022年度 大学院シラバス

文学研究科 フランス文学専攻

講義科目名	フランス語学特殊研究 X	通年・前期・後期	後期	単位数	2	使用言語	フランス語
担当教員名	ロランス シュヴァリエ						
<b>【講義の到達目標及びテーマ】</b>							
L'appropriation d'une langue étrangère: introduction aux théories et concepts et essais d'application. Ce cours s'adresse à de potentiels futurs enseignants de langue et propose de les familiariser avec quelques concepts clés de didactique, constituant une base essentielle dans une formation à l'enseignement d'une langue étrangère, dans notre cas le français.							
<b>【講義概要】</b>							
Lorsqu'on se pose la question du "comment enseigner?", on ne peut logiquement pas faire l'économie de s'interroger sur sa question "jumelle": "comment apprend-on?". Au 2nd semestre, on verra comment ces notions ont été intégrées dans les différentes méthodologies, et en particulier dans le CECR. On se demandera si ces mêmes notions font partie du paysage éducatif au Japon et dans quelle mesure elles sont adaptables à d'autres contextes.							
<b>【講義計画内容】</b>							
No	講義計画						
1	Les conceptions de l'apprentissage dans les différentes méthodologies du FLE (1): la méthodologie traditionnelle et la méthodologie directe						
2	Les conceptions de l'apprentissage dans les différentes méthodologies du FLE (2): la méthodologie active						
3	Les conceptions de l'apprentissage dans les différentes méthodologies du FLE (3): la méthodologie audio-visuelle						
4	Les conceptions de l'apprentissage dans les différentes méthodologies du FLE (4): l'approche communicative						
5	Le CECR: principes						
6	TP: analyse de méthodes						
7	L'autonomie comme principe directeur						
8	Profil de l'apprenant idéal						
9	Le rôle de l'enseignant						
10	Décrire le contexte éducatif						
11	Politique linguistique du MEXT (1): politique générale et instructions						
12	Politique linguistique du MEXT (2): analyse des instructions pour l'enseignement secondaire						
13	Monolinguisme et plurilinguisme						
14	Exposés sur l'idée d'apprentissage selon les instructions du MEXT						
<b>【テキスト】</b>							
なし							
<b>【参考書・参考資料等】</b>							
JP. Cuq, I. Gruca (2009), "Cours de didactique du français langue étrangère et seconde", PUG ; Council of Europe (2004) 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」朝日出版社							
<b>【事前・事後学習、時間等】</b>							
Lire les textes distribués et préparer des questions s'il y a des éléments non compris (1h30). Toujours relire le contenu du cours précédent et faire les devoirs demandés (1h).							
<b>【課題の種類・内容】</b>							
<b>【課題に対するフィードバックの方法】</b>							
Le feed-back oral est constant tout au long du cours. Le devoir sera rendu avec des commentaires annotés.							
<b>【成績評価方法・基準】</b>							
Exposés (50%) + travaux pratiques (TP) (30%) + participation (20%)							
<b>【履修上の注意】</b>							

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3368

FAX 092-823-3348

e-mail [gra-jimu@seinan-gu.ac.jp](mailto:gra-jimu@seinan-gu.ac.jp)

